

令和3年度 自己評価表 (全日制)

松山南高等学校 (全日制課程)
学校番号(21)

教育方針	国家社会の有為な形成者として、広く世界的視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与する若人の育成を期する。	重点目標	志高く 心を耕し 言葉を磨け
------	--	------	----------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
自己実現の支援・個性伸長の支援	生徒のキャリアデザイン能力の育成と自己実現の積極的な支援	1日平均家庭学習時間： 1・2年生は、3時間以上が50%以上、3年生は、5時間以上が50%以上。(A: +50% B: +40% C: +30% D: +20%)	D	目標を達成した1・2年生は、6月調査では18%、11月調査では22%であった。また、3年生は、6月調査では11%、11月調査38%であった。年々学習時間が減少傾向にある。また、ほとんど家庭学習をしない生徒が増えている。	本年度、目標の基準を変更したが、それでもDという評価結果になった。課題の出し方や提出方法を再確認する必要がある。昨今の生徒気質、時間をかけずに学習に取り組む姿勢も加味しながら、多角的な学習時間調査の研究を進める。
		現役生の国公立大学合格者数：250人以上 (A: +250 B: +230 C: +210 D: +200)	A	3月26日時点での合格者は276名。	入試制度の変化や多様な選抜方法に対応できるよう、総合的な力の育成に努める。
		現役生の難関国立大学合格者数：20人以上 (A: +20 B: +15 C: +10 D: +5)	A	3月26日時点での合格者は26名（東京大学1名、名古屋大学2名、大阪大学3名、神戸大学11名、九州大学9名）。	目標や適性に応じた個別指導を充実させる。
		全国模試平均偏差値：60以上 (A: +60 B: +56 C: +54 D: +52)	C	進研模試で1年生58.2(3回) 2年生58.3(3回) 3年生文系57.0、理系54.2(5回)。	ICTの活用も含めて指導方法の工夫をさらに進め、学力の向上を図る。
	生徒の個性・能力の伸長の支援	部活動加入率：90%以上 (A: +90 B: +86 C: +84 D: +82)	A	コロナ禍において、活動意欲の低下が懸念されたが、90%以上の加入率を達成することができた。	目標を明確にして、引き続いて充実感と達成感を味わうことのできる活動を探索していく。
		体育部において四国大会出場6部以上、全国大会出場4部以上 (A: +6 B: +4 C: +3 D: +1)	A	ダンス、登山、弓道、空手道が全国大会へ、ホッケー、テニス、陸上競技、ソフトテニス、水泳が四国大会に出場した。	活動に対する目標を明確にして、部員数の確保を図るとともに、限られた場所と時間を有効に利用する活動を推進する。
		県高校総文祭優秀賞：6部門以上 (A: +6 B: +4 C: +3 D: +1)	A	美術、吹奏楽、弦楽、放送、文芸、自然科学が優秀賞を受賞し、囲碁・将棋が四国大会出場権を得た。	各部の成果を発表する場を確保しながら、部員のさらなる活動意欲の向上を図っていきたい。
豊かな教養の涵養・豊かな人間性の育成	先進的なSSHの取組による新しい価値を創生する国際競争力を持った生徒の育成	全国レベルの科学コンテスト入賞数：10件以上 (A: +10 B: +8 C: +6 D: +1)	A	全国レベルの科学系コンテストの入賞数は29件となった。	全国レベルのコンテスト等で上位入賞件数が増えるように指導・支援体制を整える。
		理数科生徒の総合選抜型入試及び学校推薦型入試合格者数10人以上 (A: +10 B: +8 C: +6 D: +1)	A	理数科生徒の総合選抜型入試・学校推薦型入試合格者数15名となった。	2022年度の総合型入試や学校推薦型入試においてどのような生徒が合格しているのかを分析し、次年度に役立てる。
		創作活動や各種コンテスト等へのチャレンジ：各生徒1件以上	B	1年生によるホームプロジェクト、読書感想文、書道・美術科目選択生による作品の出展等で成果を上げている。	今後更に、各種大会のスローガンやポスター等への出展の機会の情報を提供しつつ、創作意欲の向上を図りたい。
	心身ともに健康で人間性豊かな生徒の育成	出席率：99%以上 (A: +99 B: +98 C: +96 D: +94)	C	出席率1年生は98.2%、2年生は97.9%、3年生は97.4%であった。3学年平均、97.8%。昨年度からのコロナ出停から調子を崩した生徒が複数いた。	こまめな連絡とともに、自己肯定感が高まる教育活動の工夫・実施により、学校生活が楽しいものとなるように努める。
		重大交通事故発生件数：0件 (A: 0 E: +1)	B	入院に至るような重大事故は発生していないが、軽微な事故報告は例年並みであった。	事故防止の最善策は、時間と心にゆとりを持つことだと理解させ、交通マナーも含め指導していきたい。
		いじめはどこでも起こり得るとの認識に立ち、早期に発見し解決する。	B	いじめと認知される事案は発生しなかった。SNSによる中傷などの報告もなく安定していた。	SNSや「いじり」に対して、なぜ配慮が必要なのかという根本的課題について理解させ、実践できるよう啓発を続けていきたい。
		「オール南高」の意義を全校生徒が理解し、定時制・砥部分校と共有する。	C	新型コロナウイルス感染症対策のため、積極的な交流はできなかったが、芸術文化発表会において、砥部分校との交流の機会を設けることができた。	文化祭や芸術・文化発表会などの行事を通して「オール松山南」の意義を共有していく。
	働きがいと仕事量のバランスのとれた職場環境の形成	ストレスチェックを指標として、仕事量とコントロール、上司と同僚の支援、総合健康リスクを健全に保つ。	B	ストレスチェックは、改善すべき大きな問題点はなく、昨年度同様比較的评价できる結果であった。	業務削減と適材適所の校務分掌の実施により勤務時間外在校等時間を減らし、仕事環境の改善整備の即時実行により心の健康を保つ。
※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。					